

式 辞

弥生三月、校庭の木々の蕾もほころび始め、春の息吹を感じられるこの佳き日に、県立鶴翔高等学校 第十
三回卒業式を挙行できますことを心から喜び、感謝申し上げます。本来ならば在校生はもとより皆さんの保護者
並びに御来賓の方々の御臨席を賜り盛大に挙行したかったのですが、新型コロナウイルスの全国的な拡大の傾向
から、皆さんの健康・安全を第一に考え、感染リスクに予め備えるために卒業生と教職員のみでの卒業式となり
ました。世界中に拡散しそうな非常事態とはいえ、寂しい思いをさせて大変すまなく思います。

さて、卒業証書を手にした九十二名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。晴れの門出に、心から大きな拍手を
送ります。君たちは、鶴翔高校の誇りです。

今日の晴れの姿は、群青色の制服を纏い三年前に校門をくぐった時以来、皆さんが自らの本分と鶴翔高校生と
しての立場をよくわきまえ、努力を積み重ねてきた結果です。

皆さんは、三年生としての自覚と誇りを持って、「挑戦・感動 そして愛」というスクールモットーを掲げ鶴
翔高校をリードしてくれました。そのおかげで、体育祭や飛翔祭などの様々な教育活動は活気に満ちあふれ、順
調に行われました。

部活動では陸上部のインターハイ出場、水泳部の九州大会出場、バレー部、卓球部等の県大会上位入賞を果た
しました。また、農業クラブ活動では測量競技で全国大会優秀賞を、プロジェクト発表で九州大会優秀賞を獲得
しました。そしてなにより昨年度皆さんが中心となり五十七年ぶりの日本農業クラブ全国大会鹿児島大会の運営
を見事に成功させました。地域課題の研究活動では、「廃棄ウニの有効活用」で、ふるさとづくり大賞で総務大
臣賞に輝くなど大変高い評価を頂くこともできました。総合学科の環境緑地系列・情報ビジネス系列では、高い
資格取得率を達成させました。

さらに進路実現100%を掲げた夢の実現などは、どれをとっても、「地域と共にある県立高校」をめざした
姿であります。

さて、皆さんが生きていくこの二十一世紀は、決して平坦な社会ではなく、ますます複雑になり、混沌と
した様相を深めつつあります。明日が、昨日や今日の続きと考えるにはあまりにも多くの異変が起こる時代
です。

こんな時代を生き抜かなければならない皆さんに、はなむけとして一つ、歌を贈ります。正岡子規の
「くれないの 二尺伸びたる 薔薇の芽の 針柔らかに 春の雨降る」

冬を耐えた薔薇の新芽が花を咲かそうと伸びつつも、まだトゲも柔らかく、強い風が吹いただけで折れそうで
ある。その新芽に、十分に水を飲んでゆっくり伸びなさい、と、愛おしむように春の雨が優しく降っている、と
いうこの歌は、丁度皆さんと同じで、高校時代は終わっても、花を咲かすには、まだまだ弱く、幼い面が残る皆

さんのことを見守っている人たちがたくさんいますよ、と伝えていきます。

これから人生を歩んでいくうえで、迷いが生じたときにはいつでも、周りの人に意見を求め、謙虚に自分の進路を修正してゆくことも大切です。そのために、日頃から「感謝の心」を忘れず、人とのコミュニケーションを大切に、良い人間関係を構築してください。

皆さん、家族に対して、今日こそ心からの御礼の言葉を、声に出して言ってください。そのことが、十八才の区切りであり、巣立ちの宣言にもなると思います。そして明日からは、それぞれの自分の道を歩み出すことになります。決してひるむことなく、前向きに、感謝の気持ちと共に凛と力強く生きてください。

結びになりますが、本日皆さんの晴れの姿を一番見たかったであろう保護者の皆様にお伝えください。本校の教育活動に対する深い御理解と御支援をいただき教職員一同、心から感謝していること、そして今後とも、卒業生並びに鶴翔高校を温かく見守ってほしいことを。

皆さんの今後の人生が幸多からんことを心より祈念して式辞といたします。

令和二年三月二日
鹿児島県立鶴翔高等学校
校長 前田良文